

河原電子ビジネス専門学校 コマシラバス作成・運用ガイドライン

[2019年1月作成]

1. 本ガイドラインの趣旨

本ガイドラインは、本校における教育の質保証・向上をはかることを目的として、本校における適正なコマシラバスの活用方法（作成および運用の方法）について定めるものである。

2. コマシラバス活用の目的

本校におけるコマシラバス活用の目的は、大学等で受講開始前に配布される「シラバス」のように学生の科目選択の便宜にあるのではない。授業およびカリキュラムの質保証・向上をはかり、本校のディプロマ・ポリシーにもとづく人材育成をより確実なものとするにあり。そのために、本校のコマシラバスは、ひとつひとつの授業の学修成果を着実に積み重ね、先後の科目間を緻密に接続し、カリキュラムが描く教育構想の現実化に資するものでなければならない。また、本校のコマシラバスは、ひとつひとつの授業の到達目標を明確にすることにより、授業評価と授業改善のためのプラットフォームを提供するのでなければならない。

このようなことから、本校のコマシラバスは以下の観点を踏まえて作成され、運用されるものとする。

- (1) 当該科目の学修内容が、当該学科の人材目標および社会的背景、関連業界の動向、実務上の要請、関連資格試験等の出題傾向等にどのように対応しうるものであるか、その理由を示す。
- (2) 当該科目のカリキュラム全体における位置づけを明確化する。
- (3) 当該科目の主題、概要を示す。
- (4) 当該科目の主題が全回の授業にわたってどのような重要事項や学習課題に分節されて展開されていくかを示す。
- (5) 当該科目の到達目標および評価方法を具体的な評価指標、評価基準とともに示す。
- (6) 授業回ごとの主題、学習範囲を示す。
- (7) 授業回ごとの学習内容が、実務上の課題や資格試験の出題傾向等にどのように対応しうるものか、その理由を示す。
- (8) 授業回ごとの主題が、90分の授業のなかでどのような重要事項や学習課題に分節されて展開されるかを示す。
- (9) また、その展開に応じて用いられる教授方法および参照される教材・資料の該当箇所を示す。
- (10) 授業回ごとの到達目標を示す。
- (11) 次回の授業を受講するにあたっての予習・復習の課題を示す。

なお、本校のコマシラバスは、上記観点を満たすため、構造的に、当該科目の履修上の基本情報を記述した〈科目基本情報〉、当該科目の趣旨・目的理解に必要な情報を記述した〈シラバス情報〉、各回授業の目標・要点理解に必要な情報を記述した〈コマシラバス情報〉、当該科目の到達目標を評価方法・評価基準とともに記述した〈履修判定指標〉から構成される。以下、本校におけるコマシラバスの標準

39 構成と作成の指針、および、運用方法の指針について示す。

40

41 3. 科目基本情報の構成

42 当該科目の履修に関する基本情報を記述する。各項目の記述事項は以下の通りである。

43

項目	記入事項
①学科	当該科目の帰属先学科の名称を記載する。
②コード	科目のコード番号を記載する。
③年度	開講年度を記載する。
④学年	受講年次を記載する。
⑤期	開講時期（前期、後期、通年）を記載する。
⑥分野名	当該科目の学習内容が含まれる学問分野、知識分野の名称を記載する。
⑦科目名	当該科目の名称を記載する。
⑧単位	当該科目の履修によって取得できる単位数を記載する。
⑨授業形態	当該科目の授業形態を「講義」、「演習」、「実験」、「実習」、「実技」の比率で表現し、記載する。 例 講義 80%、演習 20%
⑩実務連携型授業	当該科目が職業実践専門課程の企業連携科目である場合、あるいは、実務家教員による授業を含む科目の場合、「○」を記載する。そうでない場合、「-」（ハイフン）を記載する。
⑪必修・選択	必修科目か、選択科目かを記載する。
⑫前提とする科目	受講の前提となる科目を記載する。
⑫展開科目	当該科目の学修成果を踏まえて受講する科目の名称を記載する。
⑬関連資格	当該科目の学修成果が関連する資格試験等の名称を記載する。
⑭教員	担当する教員の氏名と、常勤教員/非常勤教員の区別を記載する。

44

45

46 4. シラバス情報の構成

47 〈シラバス情報〉の箇所には、当該科目の趣旨や目的を理解する上で必要な情報を記述する。

48

49 4-1. ディプロマ・ポリシーとの関係

50 「ディプロマ・ポリシー」は、文部科学省の定義「各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どの
51 ような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学

52 修成果の目標ともなるもの」と定義されている¹。自校自学科のディプロマ・ポリシーのうち当該科目が
53 該当する要素に印をつける。

54

55 4-2. カリキュラム・ポリシーとの関係

56 「カリキュラム・ポリシー」は、文部科学省の資料によれば「ディプロマ・ポリシーの達成のために、
57 どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するの
58 かを定める基本的な方針」と定義されている²。自校自学科のカリキュラム・ポリシーのうち当該科目が
59 該当する要素に印をつける。

60

61 4-3. 科目趣旨・目的

62 当該学科が設定する人材目標、および、一定の社会的背景、関連業界の動向、実務上の要請、関連資
63 格試験等の出題傾向との関係において、当該科目の目的・意義およびカリキュラム全体における位置づ
64 けを説明する。あわせて目的・意義に応じた科目の主題も示す。

65

66 4-4. 科目概要

67 「科目趣旨・目的」から導かれる当該科目の具体的な学修内容の概略を説明する。

68

69 4-5. キーワード

70 当該科目の内容に含まれるテクニカルターム（専門用語）を重要度順に 10 個列挙する。抽象度が高
71 く、他の学問分野、職業分野のテクニカルターム、あるいは、一般的な語句との識別が難しい表現は避
72 ける。たとえば、「社会」「関係」「生活」のような語句が回避すべきものに該当する。

73

74 4-6. 到達目標

75 当該科目の履修判定指標の全体を総括して記述を行う。当該科目によって何を学修し、どのような水
76 準に到達するのかを記述する。

77

78 4-7. カリキュラムリーダーからのコメント

79 カリキュラム開発者（カリキュラムリーダー、教務責任者、学科長）による当該科目に対する「思い」
80 をコメントとして記述する。学生に向けた当該科目の受講に対する期待表明のコメントとして記述して
81 もよい。

82

83 4-8. 授業要素・実務連携要素

84 「授業要素」として、学習内容の定着および学習効果の向上に向けて、とくに導入している授業方法
85 や授業の仕組みについて記述する。

86 「実務連携要素」は、当該科目が「実務連携型授業」に該当する場合（実務家教員による授業、企業
87 連携による授業の場合）、当該科目の実践性に影響を与えらると思われる教員や連携先企業のプロ

¹ 文科省中央教育審議会大学分科会大学教育部会『『卒業認定・学位授与の方針』（ディプロマ・ポリ
シー）、『教育課程編成・実施の方針』（カリキュラム・ポリシー）及び『入学者受入れの方針』（アドミ
ッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン』（平成28年3月31日、p.3）

² 同前

88 フィール情報と実際に想定される実践的な効果について記述する。

89

90 5. コマシラバス情報の構成

91 〈コマシラバス情報〉の箇所には、各回授業の目標・要点理解に必要な情報を記述する。

92

93 5-1. 注意事項

94 コマシラバスの作成にあたっては、まず当該科目の主題や概要を所定回数分の授業に分割・編成する
95 (以下「コマ編成」と表記)。コマ編成の際には、以下の点を検討に含める。

96

97 (1) 当該科目の冒頭に履修済み科目との接続性や関連性を認識させるための授業回を1、2コマ分配
98 置する(「準備コマ」の配置)。

99 (2) 3、4コマに1回程度の割合で、進行速度の調整をはかるコマを配置する。これにより当該科目
100 の進行スピードの調整をはかる(「調整コマ」の配置)。

101

102 5-2. コマ主題

103 当該回授業(以下「当該コマ」と表記)の主題を示す。シラバスの科目概要にもとづき、コマ単位に
104 科目主題を分割する。この作業はコマ編成とともに行うため、上記「準備コマ」、「調整コマ」を検討し
105 つつ分割する。所定のコマ数に納まりきらない場合は、コマの再統合・再分割を繰り返し、コマ編成を
106 反復する。

107

108 5-3. シラバスとの関係

109 当該コマの授業が、シラバスに記述された科目趣旨・目的(および科目主題)に対して、どういう意
110 義をもつのか、どのような位置づけにあるのかを示す。科目概要との関係を示してもよい。

111

112 5-4. コマ主題細目

113 当該コマの「コマ主題」が、どのようなサブ主題に分節されるかを示す。各コマの見出しのよう
114 なるものである。90分授業を3～4個のサブ主題に文節する。

115

116 5-5. 細目レベル

117 コマ主題細目ごとに、説明・解説の順序、学習上の重要ポイント、参照する教材・資料の該当箇所、
118 例題・練習問題の利用、教具の利用等を時系列的に記述し、当該コマの授業が、どのような方法を経て、
119 どのような地点まで到達するのかを記述する。

120

121 5-6. 5キーワード

122 当該コマの内容を理解するうえで重要となる5つのテクニカルタームを授業内で言及する順序にし
123 たがって記述する。

124

125 5-7. コマ要素

126 学習内容の定着および学習効果の向上に向け、当該コマにおいてとくに導入している方法や仕組みを

127 選択する。

128

129 5-8. 資格・実務関連

130 当該コマの学習内容が、資格試験受験や実務遂行にどのような効果を有するかを具体的に説明する
131 (たとえば、過去の出題例等との関係を具体的に示す)。

132

133 5-9. 復習・予習課題

134 学生が、次回の授業を受講する前に、どのような事柄を復習しておくべきか、どのような事柄を予習
135 しておくべきかを記述する。

136

137 5-10. 教材・教具

138 当該コマの内容に関する主要な参考文献や資料を挙げる。できるかぎり、参照箇所（ページ番号等）
139 も示す。

140

141 6. 履修判定指標

142 〈履修判定指標〉は、当該科目の到達目標を評価方法・評価基準とともに示す。これにより、当該科
143 目の履修に必要な学習活動の質と量に関する目安を示す。

144 まず、履修判定の指標を重要度順（試験配点の高い順）に 10 個挙げ、次に、その指標のひとつひとつに
145 履修水準（どの程度まで理解していなければならないか）、キーワード、試験配点、関連する授業
146 回の番号を記述する。各項目の記述方法の詳細は以下の通りである。

147

148 6-1. 履修指標

149 一項目は 10 字以上。①から⑩まで重要度順に記述する。

150

151 6-2. 履修指標の水準

152 当該指標について学生がどの程度、学習内容を理解、習得していなければならないかを示す。

153

154 6-3. キーワード

155 履修指標に関連するテクニカルタームを記述する。

156

157 6-4. 配点

158 100 点満点換算で何点分の配点になるのかを示す。たとえば、100 点中 20 点分の問題を出題す
159 る場合は「20」と記述する。なお、履修判定指標の重要度（①に近づくほど重要度が高い、⑩に近づく
160 ほど重要度が低い）に準じた配点とする。

161

162 6-5. 関連

163 その履修指標が、コマシラバス上の何回目の授業の内容と関係しているか、授業回の番号を記述する
164 (複数可)。

165

166 **7. コマシラバスの運用**

167 **7-1. コマシラバスの配布時期**

168 それぞれの科目の第一回目の授業の際に配布する。

169

170 **7-2. コマシラバスの配布者**

171 原則的に、科目担当者が配布する。

172

173 **7-3. 一回目の授業におけるコマシラバスの活用**

174 各科目の一回目の授業では、コマシラバスを参照しながら、当該科目の学習内容に対する学生の関
175 心・意欲を高めると同時に、当該科目の学習を進めていく上での「学習上の手がかり」を提供する。具
176 体的には、以下の説明のためにコマシラバスを活用する。

177

178 (1) 当該科目が、当該学科の人材目標および社会的背景、関連業界の動向、実務上の課題、関連資格
179 試験の出題傾向等とどのように対応しうるのか、とくに当該科目によってえられる学修成果との関
180 係を明確にするという観点から説明する。

181 (2) 当該科目が、当該学科の人材目標と結びついたカリキュラムのなかでどのように位置づけられて
182 いるか、履修済み科目や今後履修予定の科目と学習内容がどのように有機的に結びついているかを
183 説明する。

184 (3) 当該科目の主題が全回の授業にわたってどのように展開されるのか、要所要所の学習課題、利用
185 する教材・資料・教具とともに説明する。

186 (4) 当該科目の到達目標および評価方法を具体的な評価指標、評価基準とともに説明し、目標意識を
187 もたせるとともに「学習上の手がかり」を提供する。

188

189 **7-4. 毎回の授業におけるコマシラバスの活用**

190 各科目の二回目以降の授業では、コマシラバスを用いて、まず授業の冒頭で授業全体を概観し、90
191 分の授業内容に対する学生の関心・意欲を高めると同時に、「学習上の手がかり」を提供する。また、
192 授業の進行過程では、コマシラバスを用いて、そのつどの重要事項の確認を行い、学習内容の整理や定
193 着に役立てる。そのため、各回の授業において以下のようにコマシラバスを活用する。

194

195 (1) 各回の授業の冒頭で、コマシラバスを参照しながら、90 分の授業の到達目標を、要所要所の学
196 習課題、利用する教材・資料・教具とともに説明する。

197 (2) 各回の授業の進行過程で、コマシラバスを参照しながら、そのつどの重要事項等の確認を行う。

198 (3) 各回の授業の進行過程で、コマシラバスを参照しながら、授業内容のどの点の実務上の課題や資
199 格試験の出題傾向に対応しうるのか、その理由とともに説明する。

200 (4) 各回の授業の末尾で、コマシラバスを参照しながら、次回の授業を受講するにあたっての予習・
201 復習の課題を説明する。

202